

# ECONOMY TOPICS

## 経済トピックス

2015.11.25

No.436



### 平成 27 年冬のボーナス調査

#### レポートの概要

平成 27 年冬のボーナス受給見込額は、平均で 38 万 2 千円となり、昨年冬の受給実績を 3 千円上回った。一方、ボーナス希望額は平均で 52 万 5 千円となった。なお、今冬のボーナスの伸び(見込み)は期待指数が昨年冬に比べ 0.8 ポイント上昇し、全体的に改善傾向がうかがわれた。

ボーナスの使途計画は、「消費」が 40.1%、「貯蓄」が 44.8%、「返済」が 15.1%の割合となり、昨年冬に比べ「消費、返済」が低下、「貯蓄」が上昇し、それぞれ小幅な変動にとどまった。「貯蓄」の目的については、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合がトップとなったが、昨年冬に比べ「老後の備え」の増加が目立った。

最近の暮らし向き調査では、暮らし向き指数が 27 年夏に比べて 2.2 ポイント上昇した。「良くなった」とする割合が 0.8 ポイント増加し、「悪くなった」とする割合は 3.5 ポイント減少した。暮らし向きについては緩やかではあるが改善傾向がうかがわれる。

県内給与所得者の小遣いの平均額は、毎月が約 3 万 6,100 円、ボーナス時は約 5 万 8,700 円となった。最も小遣いが多かったのは毎月が 20 代男性、ボーナス時は 20 代女性であった。

この冬の御歳暮は、贈る「予定あり」が全体の 32.2%となった。平均贈答先数は 4.5 先、1 先当たりの平均金額は 4,754 円、御歳暮予算合計額は約 2 万 638 円となった。昨年冬に比べ、贈答先数が減少、平均金額、予算額は増加した。

# 1. 平成27年冬のボーナス調査

## (1) ボーナス受給見込額

平均38万2千円、昨年冬を3千円上回る

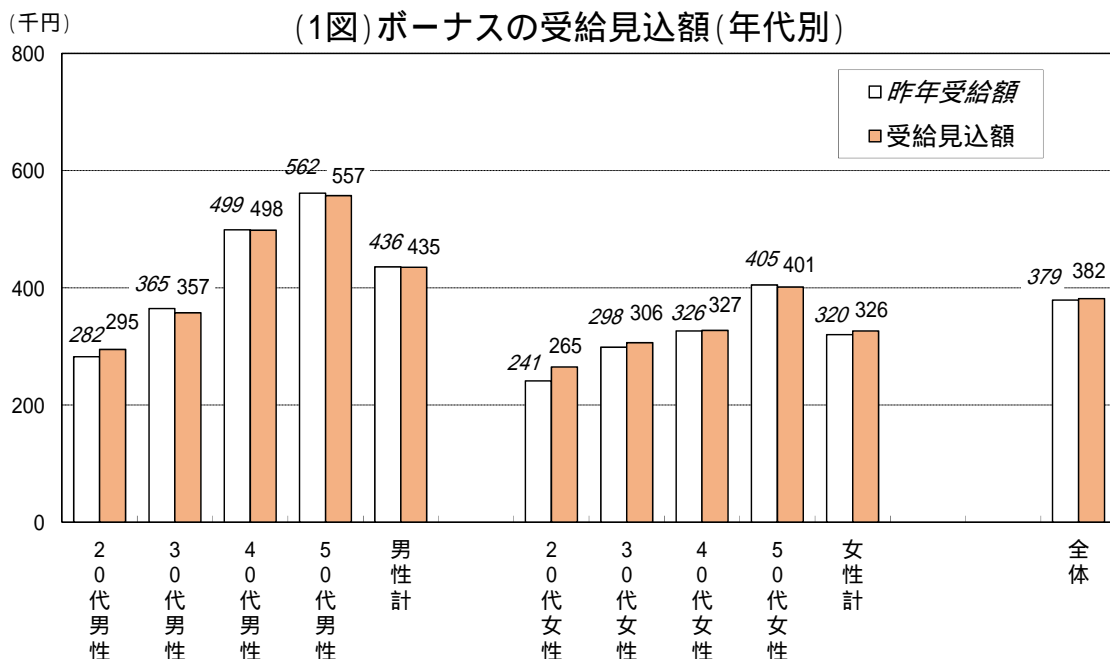
県内給与所得者が予想する今冬のボーナス受給見込額は、平均で38万2千円となり、回答者の昨年冬の受給実績(平均37万9千円)を3千円上回った。これを年代別・男女別にみると、最も見込額が大きかったのは50代(50代以上を含む、以下同じ)男性の55万7千円、次いで40代男性の49万8千円、50代女性の40万1千円、30代男性の35万7千円などの順となった。また、20代(20代以下を含む、以下同じ)男性・女性は30万円を下回った。

男女別の平均見込額を比較すると、男性が43万5千円、女性は32万6千円となり、男性が女性を10万9千円上回った。また、

各年代とも男性が女性を上回っている。

年代別に今冬の見込額と昨年冬の受給実績額との開きをみると、男性は20代で、女性は50代以外の年代で昨年冬の受給額を上回った。差額は20代男性が1万3千円、20代女性が2万4千円、30代女性が8千円、40代女性が1千円となった。一方、30代以上の男性と50代女性は昨年冬の受給額を下回った。差額は30代男性が8千円、40代男性が1千円、50代男性が5千円、50代女性が4千円となった。

(以上、1図参照)



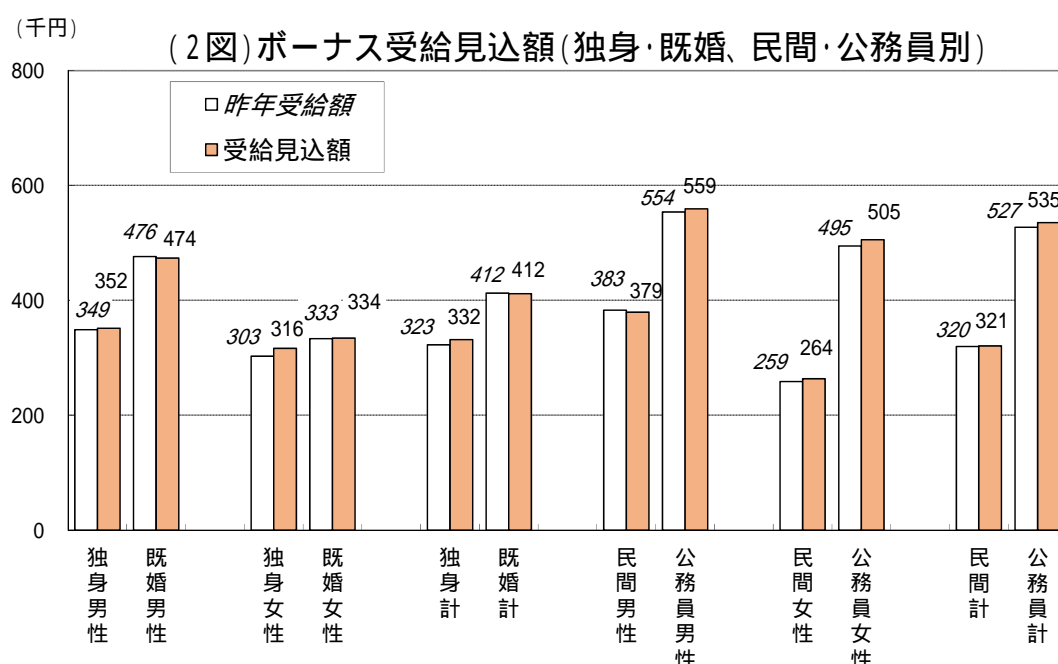
受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が33万2千円、既婚者が41万2千円となった。昨年冬の受給実績に比べ独身者が9千円上回り、既婚者は幾分(1千円未満)下回った。

また、民間・公務員別では、民間が32万1千円、公務員が53万5千円となった。昨年冬の受給実績額に比べ民間が1千円、公務員は8千円それぞれ上回る見込みである。男性は民間が4千円下回り、公務員

は5千円上回る見込みである。一方、女性は民間が5千円、公務員は1万円それぞれ上回る見込みである。

今冬のボーナス受給見込み額は、ほとんどの属性で女性が昨年冬の受給実績額上回る結果となった。また、下回るとした属性についても、それぞれ1万円未満と、全体に比較的小幅な減少にとどまった。

(以上、2図参照)



## (2) ボーナスの希望額

ボーナス希望額は平均52万5千円

今冬のボーナス希望額は平均で52万5千円となり、平均受給見込額38万2千円との間に14万3千円の乖離を生じた。男女別の平均希望額を比較すると、男性が60万1千円、女性は44万5千円となり、男性は女性に比べ15万6千円多かった。

年代別・男女別の平均希望額をみると、50代男性が75万円でトップとなり、以下、

40代男性の67万3千円、50代女性の53万5千円、30代男性の52万9千円などと続いた。

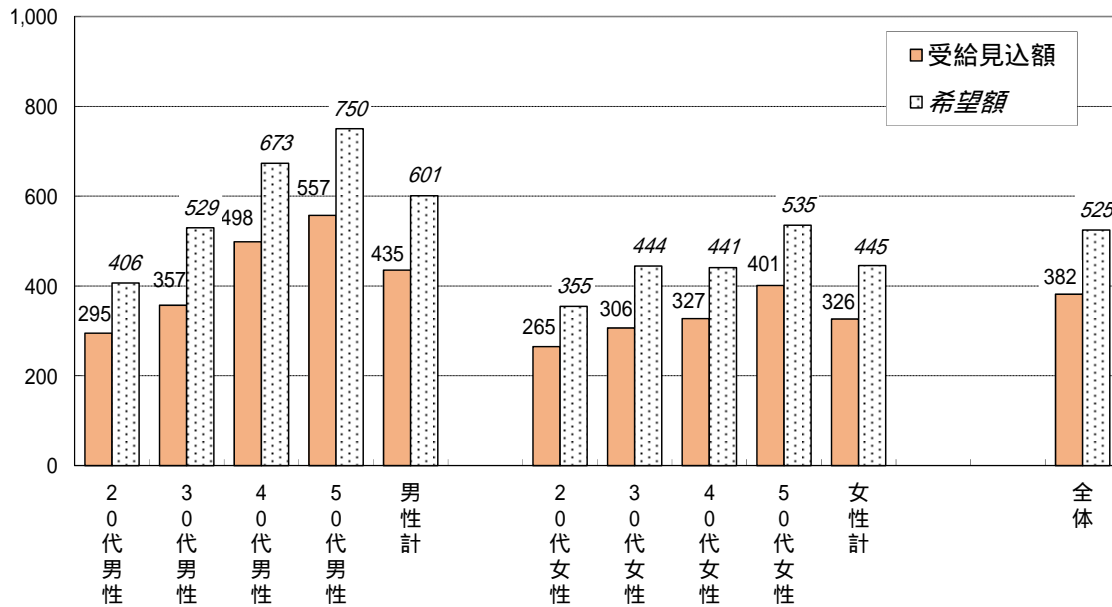
受給見込額と希望額との乖離幅を年代別にみると、50代男性が19万3千円で最も大きく、次いで40代男性の17万5千円、30代男性の17万2千円、30代女性の13万8千円などと続いた。各年代とも男性の

乖離幅が女性に比べ大きかった。なお、独身・既婚別にみると、男性は既婚者の乖離幅が独身者に比べ大きかったが、女性は独身者が既婚者を幾分上回った。民間・公務

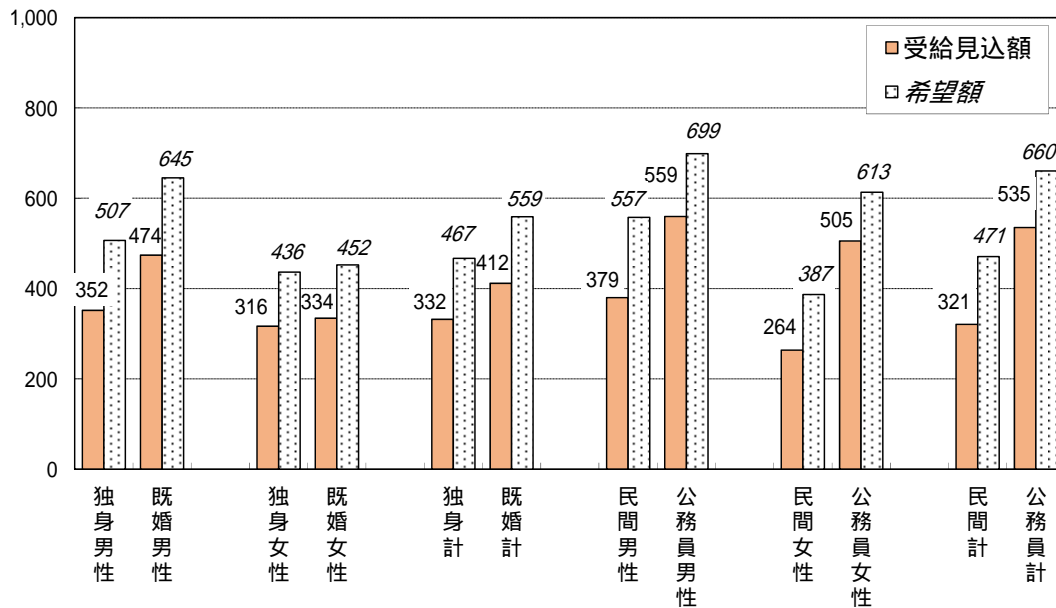
員別でみると、民間の乖離幅が公務員に比べ大きかった。

(以上、3、4 図参照)

(千円) (3 図) ボーナス希望額(年代別)



(千円) (4 図) ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)



### (3) ボーナスの伸びについて 期待指数 0.8 ポイント上昇、全体的に改善傾向

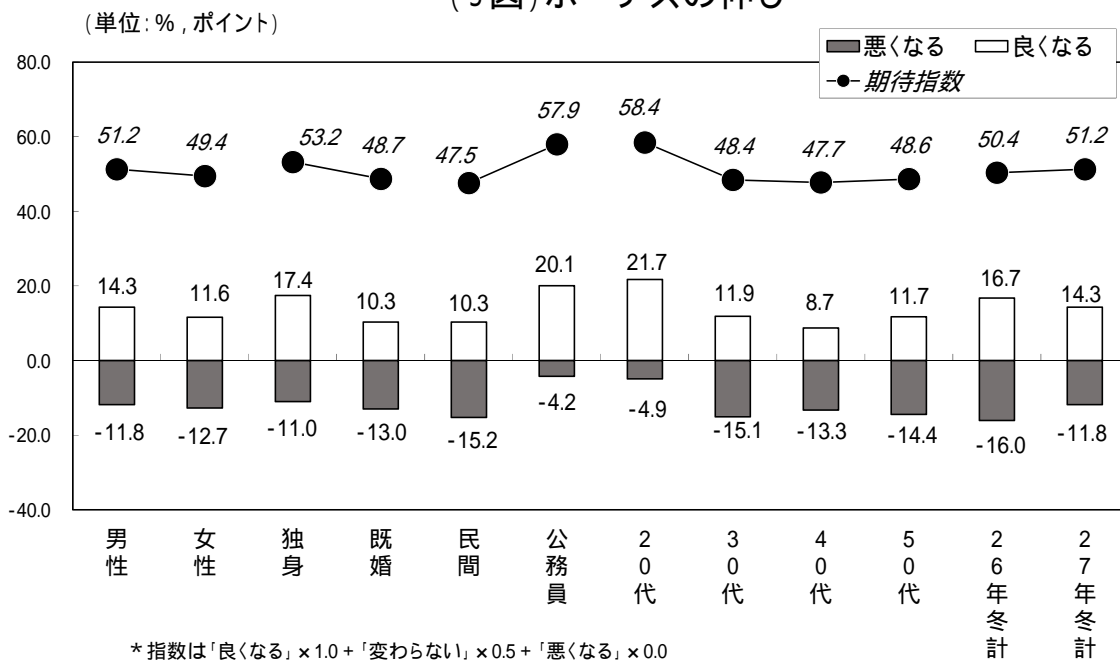
今冬のボーナスの伸びは前年同期に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「悪くなる」、「変わらない」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は、26年冬に比べ2.4ポイント減少の14.3%、「悪くなる」が同4.2ポイント減少の11.8%となり、「変わらない」は同6.6ポイント増加の73.9%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5図、注記参照)は51.2となり、昨年冬に比べて0.8ポイント上昇した。

年代・属性別にみると、男性、独身、公務員、20代で「良くなる」割合が「悪くなる」を上回り、「悪くなる」とする割合は各属性とも16.0%を下回った。期待指数が高かったのは、公務員(57.9)、20代(58.4)であった。

今冬のボーナスの伸びについては、昨年冬に続き「良くなる」の割合が「悪くなる」を上回り、全体的に改善傾向がうかがわれる。

(以上、5図参照)

(5図) ボーナスの伸び



### (4) ボーナスの使途計画 消費・返済・貯蓄割合とも、それぞれ小幅な変動

今冬のボーナスの使途計画は、「消費」が40.1%、「貯蓄」が44.8%、「返済」が15.1%の割合となった。昨年冬と比べると、

「消費」割合が0.4ポイント上昇、「貯蓄」割合が0.9ポイント低下、「返済」割合が0.5ポイント上昇となり、それぞれ小幅な変動に

とどまった。

男女別にみると、男性は「返済」割合、女性は「消費」、「貯蓄」割合が高かった。独身・既婚別では、独身者は「消費」、「貯蓄」割合、既婚者は「返済」割合が高かった。民間・公務員別では、民間は「消費」、「貯蓄」割合が高く、公務員は「返済」割合が高かった。

年代別にみると、「消費」割合は20代、50代がそれぞれ4割を超え、30代は幾分落ち込みがみられた。20代は買い物、レジャーの割合の高さが目立った。「貯蓄」割合は30代が最も高かった。「返済」割合は40代が19.3%で最も高く、住宅ローンの割合は40代、50代が9.1%となった。

(以上、1表、6図参照)

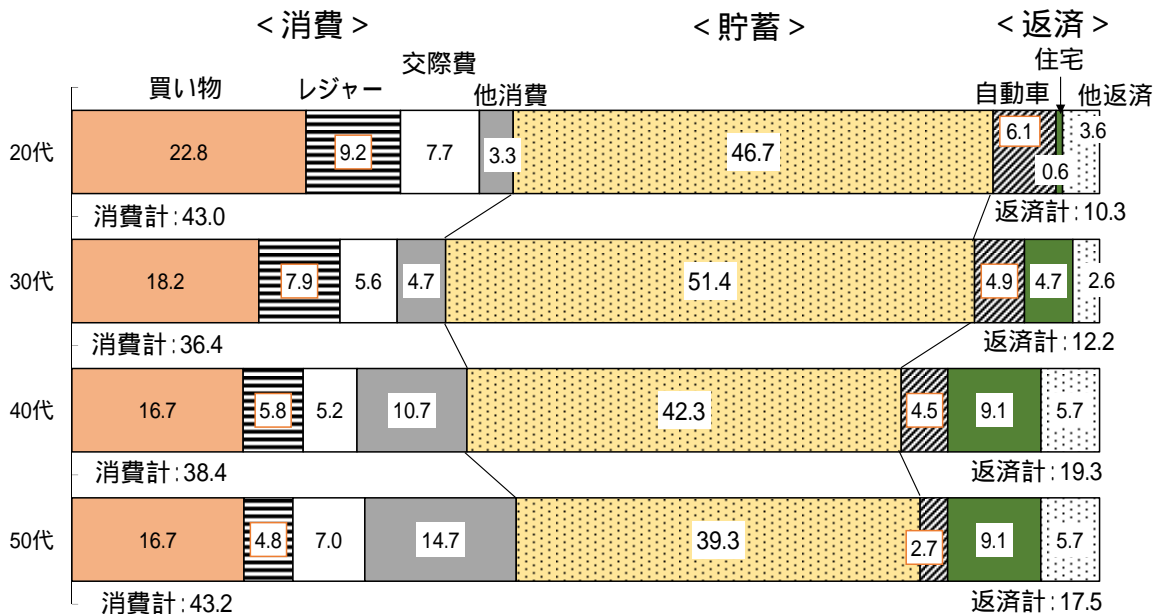
(1表) ボーナスの使途計画

(単位: %)

	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車		住宅	その他		
男性	38.7	17.5	5.9	6.8	8.5	41.7	19.6	5.3	8.9	5.4
女性	41.5	19.3	7.8	5.7	8.7	48.1	10.4	3.7	3.3	3.4
独身者	44.1	20.6	8.7	7.5	7.3	45.7	10.2	4.7	1.2	4.3
既婚者	37.6	17.0	5.7	5.5	9.4	44.3	18.1	4.4	9.1	4.6
民間	41.0	19.2	6.6	6.2	9.0	46.1	12.9	4.2	4.3	4.4
公務員	37.8	16.3	7.3	6.4	7.8	41.7	20.5	5.1	10.8	4.6
27年冬計	40.1	18.4	6.8	6.3	8.6	44.8	15.1	4.5	6.2	4.4
26年冬計	39.7	17.4	6.8	6.3	9.2	45.7	14.6	3.8	6.2	4.6
25年冬計	41.7	17.8	7.0	6.9	10.0	43.3	15.0	3.4	6.7	4.9

(6図) 年代別ボーナスの使途計画

(単位: %)



## (5) 貯蓄の目的

### 「老後の備え」の割合が増加

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が39.6%で最も高く、以下「老後の備え」が36.8%、「教育」が27.8%などと続いた。

昨年冬との比較では、「老後の備え」が5.6ポイント増加し、「安心だから」の割合は4.0ポイント減少した。また、6位の「住宅」と7位の「耐久消費財」の順位が入れ替わった。

男女別にみると、男性は「住宅」、「教育」

の割合が女性に比べ高く、女性は「旅行」(26.7%)が男性を9.4ポイント上回った。

独身・既婚別にみると、独身者はトップが「安心だから」(58.6%)で既婚者に比べ30.3ポイント高く、次いで「旅行」、「老後の備え」、「結婚」と続いた。一方、既婚者は「老後の備え」(42.3%)がトップとなり、「教育」(41.2%)は「安心だから」を上回った。

(以上、2表参照)

(2表)貯蓄の目的

					(単位:%)				
	男	性女	性独	身既	婚	27年冬計	26年冬計	25年冬計	
住 宅	13.7		10.5	5.6	16.0	12.1	11.0	12.3	
教 育	(3) 29.9		25.6	5.2	(2) 41.2	(3) 27.8	(3) 28.4	(3) 30.3	
結 婚	7.4		9.4	20.5	1.1	8.4	8.4	8.5	
旅 行	17.3	(3)	26.7	(2)	28.0	18.3	21.9	20.1	20.8
耐 久 性 消 費 財	9.9		11.1	9.3	11.1	10.5	11.4	9.3	
病 気 の 備 え	11.2		13.4	10.1	13.6	12.3	14.1	12.2	
老 後 の 備 え	(2) 37.3	(2)	36.4	(3)	27.6	(1) 42.3	(2) 36.8	(2) 31.2	(2) 32.1
安 心 だ か ら	(1) 38.9	(1)	40.3	(1)	58.6	(3) 28.3	(1) 39.6	(1) 43.6	(1) 43.6

## 2. 最近の暮らし向き調査

### 厳しさが続く中、緩やかではあるが改善傾向

まず、「今年の今頃に比べて最近の暮らし向きはいかがですか」との問いに対しては、「良くなった」とする回答は27年夏に比べ0.8ポイント増加の6.6%、一方、「悪くなった」は3.5ポイント減少の15.5%、「変わらない」は2.7ポイント増加の77.9%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は45.6と、27年夏に比べ2.2ポイント上昇した。

暮らし向き指数は24年夏以降、8期(半期毎)連続で40.0を超える水準で推移して

おり、今回は過去10年間で最も高い数値となった。依然として「悪くなった」が「良くなった」を上回って推移しており、暮らし向きの厳しさが続いている。しかしながら、「良くなった」とする割合はこのところ幾分ではあるが増加傾向にあり、緩やかではあるが改善傾向がうかがわれる。

年代別、属性別に見ると、「良くなった」とする割合は40代以上では3%以下にとどまったものの、20代では15.2%となった。また、独身者(9.9%)は既婚者を5.2ポイント上回

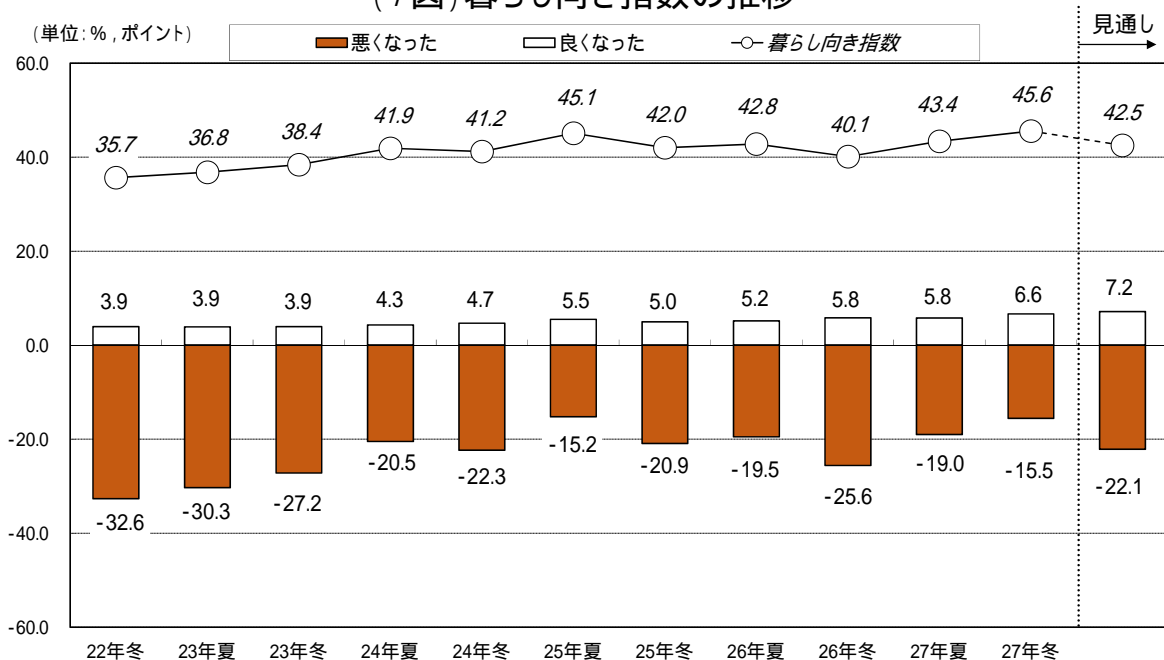
っており、若年層において「良くなった」とする見方が広がっている。一方、「悪くなった」とする割合は、各属性とも27年夏に比べ低い割合となった。

次に「1年後の暮らし向きはどうなると考えますか」との問いに対しては、「良くなる」

の割合が0.6ポイント増加の7.2%となったものの、「悪くなる」は6.6ポイント増加の22.1%となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在の暮らし向き指数」を3.1ポイント下回る42.5と見込まれている。

(以上、7図、3表参照)

(7図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方(属性)

(単位: %, ポイント)

	現在		今後		現在		今後		現在		今後	
	良くなった	→	変わらない	→	変わらない	悪くなった	→	悪くなる	指数	→	指数	
男性	5.7	→	79.6	→	71.3	14.7	→	21.9	45.5	→	42.5	
女性	7.5	→	76.2	→	70.1	16.3	→	22.4	45.6	→	42.6	
独身	9.9	→	77.6	→	72.1	12.5	→	16.3	48.7	→	47.7	
既婚	4.7	→	78.0	→	69.9	17.3	→	25.5	43.7	→	39.5	
民間	6.3	→	77.3	→	69.9	16.3	→	23.4	45.0	→	41.7	
公務員	7.5	→	79.1	→	72.9	13.4	→	18.8	47.0	→	44.7	
20代	15.2	→	77.7	→	74.6	7.1	→	10.2	54.1	→	52.5	
30代	8.0	→	79.2	→	77.1	12.8	→	16.7	47.6	→	44.7	
40代	2.5	→	79.6	→	70.3	17.9	→	25.8	42.3	→	39.1	
50代	3.0	→	74.5	→	61.6	22.5	→	33.2	40.3	→	36.0	
全体	6.6	→	77.8	→	70.7	15.5	→	22.1	45.6	→	42.5	

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0



### 3. 県内給与所得者の小遣いについて

#### 毎月が20代男性、ボーナス時は20代女性がトップ

ボーナス調査に併せて、給与所得者の小遣いについても調査した。全体では毎月の平均小遣い額は約3万6,100円、ボーナス時は約5万8,700円となった。男女別にみると、男性は毎月の平均額が約4万円、ボーナス時は約6万300円、女性は毎月が約3万2,000円、ボーナス時が約5万7,200円となった。

次に男女・年代別に小遣いの額を見ると、毎月の小遣いをもっとも多いのは20代男

性の約5万2,900円、逆に最も少ないのは40代女性の約2万6,300円であった。ボーナス時では最も多いのが20代女性の約8万800円、最も少ないのは40代女性の約4万3,700円であった。

毎月の小遣いは全ての年代で男性が女性を上回った。ボーナス時は20代、50代で女性が男性を上回った。

(以上、4表参照)

(4表)小遣いの額

(単位:円)

	男 性		女 性		総 計	
	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時	毎月	ボーナス時
20代	52,855	72,463	41,882	80,797	47,304	76,691
30代	36,881	58,784	32,163	53,846	34,721	56,475
40代	34,942	61,220	26,256	43,693	30,460	52,147
50代	39,125	50,104	30,649	53,731	35,191	51,792
年代計	40,040	60,277	31,958	57,163	36,106	58,749

### 4. この冬の御歳暮事情について

#### 予定あり32.2%、贈答先数4.5先、平均金額4,754円

この冬、御歳暮を贈る予定については、全体の32.2%が「予定あり」としており、昨年冬(30.4%)に比べ1.8ポイント上昇した。

属性別にみると、独身・既婚別では、独身者の「予定あり」が16.4%にとどまったのに対し、既婚者は41.3%となった。「予定あり」を年代別にみると、20代は10.3%であるが、年代が進むにつれて割合が大幅に増加し、50代では58.4%となった。

次に「予定あり」の回答者に贈答先数と1先当たりの平均金額を尋ねたところ、平均先数が4.5先、1先当たりの平均金額が

4,754円となり、御歳暮予算合計額は2万638円となった。昨年冬の調査と比べると、贈答先数(昨年冬4.7先)が0.2先減少した。平均金額(同4,452円)は302円、予算額(同2万15円)は623円増加した。

属性別にみると、独身・既婚別では、先数、平均金額とも既婚者が独身者を上回った。また、年代別でみると、先数、予算額は50代、平均金額は30代が最も多かった。一方、先数、予算額が最も少ないのは20代で平均金額は40代が最も少なかった。

(以上、5表、6表参照)

(5表) 御歳暮の予定

(単位: %)

	予定あり	予定なし
独身	16.4	83.6
既婚	41.3	58.7
20代	10.3	89.7
30代	21.3	78.7
40代	34.4	65.6
50代	58.4	41.6
全体	32.2	67.8

(6表) 御歳暮の先数と予算

(単位: 先、円)

	贈答先数	平均金額	御歳暮予算
独身	4.0	4,693	17,500
既婚	4.6	4,769	21,383
20代	2.0	4,650	9,100
30代	4.2	4,978	20,413
40代	3.9	4,432	16,396
50代	5.4	4,922	25,441
全体	4.5	4,754	20,638

(注) 回答項目をそれぞれ単純平均

以上

## 調査要領

調査対象者	県内在住の男女給与所得者
調査時期	平成27年11月上旬
配布・回収枚数	配布枚数 1,000枚 回収枚数 936枚 (回収率 93.6%)

## 回答者内訳

(単位: 人)

属性	男性	女性	合計
20代	90	107	197
30代	121	107	228
40代	129	150	279
50代	118	114	232
独身	146	199	345
既婚	312	279	591
民間企業	318	363	681
公務員	140	115	255
合計	458	478	936

注: 20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

## 【 本件に関する照会先 】

一般財団法人 青森地域社会研究所  
主任研究員 野里和廣  
TEL 017-777-1511